

とやま市公民館だより

富山市教育委員会 富山市公民館連絡協議会 令和7年12月20日発行

富山市公民館研修会(前期)

令和7年7月15日(火) 大久保ふれあいセンター

《特別講演》



《事例発表》



岩瀬大町公民館



春日町公民館



受彰おめでとうございます

全国公民館連合会表彰

永年勤続職員表彰 加 藤 美 加 (富山市立萩浦公民館)

全国公民館研究集会(11月12日)において受彰

富山県公民館連合会表彰

永年勤続職員表彰
(10年以上) 宮 崎 香 (富山市立蜷川公民館)
清 水 正 美 (富山市立大庄公民館)

富山県公民館大会(9月11日)において受彰

〈特別講演〉「持続可能なまちへ」

～コンパクトシティで進化したまちがスマートシティで深化する～

富山市長 藤井 裕久 氏



《コンパクトシティ政策の歩みと成果》

富山市は、全国に先駆けて20年前から「公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくり」に取り組んできました。

人口減少・超高齢化社会への備えとして、暮らしの利便性・持続性を維持するため、鉄軌道やバスなどの公共交通を強化し、その沿線(通称「団子」エリア)への居住を促進してきました。

中心市街地の活性化にも力を注ぎ、富山駅周辺では年間2,000件を超えるイベントを開催し、流入人口と税収が増加。これらの税収は郊外や中山間地域など市域全体へ再配分されています。

《スマートシティの推進とデジタル活用》

人手不足や過疎化に対応するため、「スマートシティ」への取り組みを本格化しています。

公共交通のデマンド化・AI配車、LINEによる防災・行政通知、電子申請、道路損傷通報サービスなど、市民の利便性向上を図っています。

富山市スマートシティ推進プラットフォーム(通称SCRUM-T)には、現在、地元企業からスタートアップまで240団体が参画し、地域の自治振興会と連携した電子回覧板・地域SNSの導入など、地域ぐるみでデジタル化を進めています。

《子ども・若者を中心とした教育政策》

「こどもまんなかのまちづくり」を掲げ、すべての子どもが安心して成長できる環境づくりに取り組んでいます。

こども医療費助成の高校生までの対象拡大、妊産婦医療費の所得制限廃止、産後ケア事業の拡充など、具体的な支援策を強化しています。

また、不登校や孤立に悩む子どもに向けて、多様な学校の設置や、メタバースを活用した居場所づくりと支援を進めています。このような富山の教育の質の高さは、一昨年のG7教育大臣会合でも高い評価を得ています。



富山市こどもまんなか推進
ロゴマーク

《安全・安心なまちづくりと環境政策》

災害時に備えた備蓄品(ラップ式トイレ、蹴破り扉、スマートロックなど)や自動開錠システムの整備を進め、避難体制を強化し、さらにCO₂削減のため太陽光発電設備の導入支援、公共施設の再生エネルギー活用を進めています。

ごみの減量化にも本格的に取り組んでおり、有料化だけでなく分別・資源化の強化も並行して行っています。

《農業・コミュニティ・スポーツ振興》

水橋地区では大規模区画整備とスマート農業を推進しています。また、家族農業にも機械導入支援を開始し、農地の継承と活性化を支援しています。

コミュニティの活性化にも重点を置き、祭りや防災訓練への補助を通じて地域のつながりを維持。また、プロバスケットボール「富山グラウジーズ」のBプレミアリーグ参入に伴い、富山市総合体育館を改修し、国内外からの人の流れを創出する政策も展開しています。



《未来へ向けた都市計画とビジョン》

現在、富山市の都市マスタープランを約20年ぶりに全面更新中です。空き家・空き地の再生利用、災害・デジタル社会への対応などを織り込んだ、次の時代のまちづくりを見据えた内容です。

「合併20年」の節目に、旧町村を含めた市民全体が一体となり、未来に向けて歩むことが重要です。

行政は裏方に徹し、市民、企業、地域が主役となって幸せを実現する、そんな“コンパクト&スマート”なまちづくりを深化させてまいります。

(要旨)



岩瀬曳山車祭を通して
若い人や子供達と交流し
地域の活性化を図る

事例発表

住民のコミュニティの
拠点としての公民館

岩瀬大町公民館 館長 武藤 勝彦

《地区の概要》

市の北部、富山湾に面した岩瀬地区は、富山港を擁する港町です。海水浴場やパークゴルフ場、競輪場等の他、数多くの神社仏閣が点在するのも特徴です。

岩瀬大町(通称)は、岩瀬の中心通りに位置し、公称町名は東岩瀬町。敷地が狭く、隣家と壁を接する住宅が多いため、宅地不足による人口減少が顕著です。

《東岩瀬町の歴史》

江戸時代には、北前船の寄港地として栄え、現在も廻船問屋などの古い街並みが大切に残されています。富山市に編入後、富山港の改修や、富岩運河の完成により、県内最大級の工業地帯として発展しました。

また、平成18年にはライトレールが開業し、利便性の向上と共に、観光客が増加しました。



廻船問屋 馬場家

《公民館行事》

1月の餅つき大会に始まり、季節ごとの行事の他、年末には町内夜警を実施しています。

毎年3月中旬からは、5月の岩瀬曳山車祭に向け、子どもたちのお囃子の練習が始まります。代々、成人した子どもが先生となって教えるのが伝統です。

《岩瀬曳山車祭の特色と課題》

岩瀬諏訪神社の神事で、通称“けんか山車”。山車同士をぶつけ合う勇壮な祭です。たてもんと呼ばれる行灯は、その年の世相を題材に毎年作製し、祭の翌日には解体します。人口減少による担い手不足、曳山車の保存・改修費用の調達など課題は多く、今後は祭の日程変更や観光化の必要性など、検討が必要です。



子どもたちも一緒に曳く山車

《町内会の活性化を図るために》

曳山車の現役世代で作る若衆の会“大遊会”が、町内会と一緒に活動しています。曳山車祭を通して信頼関係が築かれ、町内から転出した人やその子ども達、また町内に縁のある人達が、祭以外にいつでも行き来できる環境が出来上がっています。今後とも、伝統ある曳山車祭を大切に、以前の活気ある岩瀬を取り戻したいという思いで、我が町内は活動してまいります。(要旨)

春日町公民館 館長 中川 誠

《地区の概要と歴史》

春日町は、現在の太郎丸本町1・2丁目の一部で、富山市科学博物館の南側にあり、南北220m、東西150mほどの小さな区域で、70世帯の少子高齢化地域です。昭和42年に町内会を設立し、平成8年に公民館を建設しました。平成9年には町内会で桜を植栽した春日町公園ができました。



植栽した桜の木

《地域コミュニティの拠点》

公民館がなかった約27年間は、集まってコミュニケーションをとれる場所がないため、町内の人の顔が互いにあまり分からず、行事運営も役職の人だけが集まっていたので、町内の一体感に乏しいように思いました。公民館ができてからは、行事のほとんどを公民館を拠点として行うことになり、コミュニケーションが活発となり、住民同士の顔がほとんど分かるようになりました。このことから、いかに公民館が地域のコミュニケーションに役立つかを痛切に感じています。

《町内会活動と公民館行事》

公園整備は全住民が所属する公園愛護会が中心です。夏はラジオ体操、夏祭りとは花火大会、秋祭りでは子ども御輿や公民館で、おこわや焼き鳥などを作り、みんなで楽しみました。



公園内のメイン花壇

また公民館では令和4年から月1回おしゃべり会「カフェものがたり」を開催し、女性有志が、肩の凝らない世間話の場として活動し既に39回続いています。

《公民館の課題》

一つ目は、公民館を利用している新しい事業です。設立以来老人会というものはありません。そのために高齢者が集まる機会がなく、特に高齢男性が集まれる事業を検討したいです。二つ目は、災害に対応する公民館です。当公民館は規模が小さいので避難所としての利用が難しいので、災害物資の支給ができる公民館を目指したいです。また、コロナ禍以降、町内行事の参加者が減ってきているので、それも大きな課題の一つであります。(要旨)

第47回 全国公民館大会に参加して



ミライにつなぎひろげる公民館 ー 公民館に新たなイノベーションを！ ー

富山市公民館連絡協議会
副会長 森 田 優 弘

この大会は、11月12・13日の2日間、東京国際フォーラムで開催されました。本大会は全国の公民館関係者が一堂に会する大会であり、7年ぶりの開催となりました。

初日は、アトラクションとして「ほこあほこハンドベルアンサンブル」の元気な演奏があり、表彰式と続き、そのあと基調講演ではコミュニティデザイナーの山崎亮さんの「地域のミライをひらく公民館」と題し講演がありました。その中で、各種施設の一部を地域に開かれた空間として活用する取り組みが紹介されました。そのあとシンポジウムへと続きました。コーディネーターは大正大学教授の牧野篤さん、パネラーは、河村潤子さん(元文科省生涯学習政策局長)、山崎亮さん、宮城潤さん(沖縄市若狭公民館館長)です。その中で、若狭館長さんによる公民館のない地域で屋外に簡易な学びの場を設けて活動する実践が報告されましたが、公民館建物の必要性を巡る議論は明確な結論には至らなかったは残念でした。

2日目は、牧野さんと文化活動家のアサダワタルさん、グラントレベル代表取締役社長の田中元子さんと、それぞれ対談がありました。また、映像作家の栗山宗大さんの映像作品が上映され、中高生を主体とした地域イベントの企画や、公園の再生に取り組む事例が紹介されました。上映後の対談では、公民館活動をより活性化させるための視点や工夫について多くの示唆が得られました。

閉会にあたり、公民館制度の開設以来80年を迎える中で、「つどう」「まなぶ」「むすぶ」という理念を基盤に、時代の変化に応じて進化し続けることの重要性が改めて確認されました。



富山市教育委員会へ要望書提出

8月22日、市公連から会長はじめ副会長、常任理事等8名で、市教育委員会へ要望書を提出しました。市側からは、教育委員会関谷事務局長はじめ幹部の皆さん4名が出席されました。

要 望 事 項

- 1 市立公民館職員の研修機会拡充
- 2 公民館の施設整備への支援
- 3 社会教育主事の配置及び社会教育士制度の活用促進
- 4 市公連への加入促進
- 5 自治公民館建設補助金の活用
- 6 自治公民館建設補助金(修繕)の補助対象経費の引き下げ及び経過期間(5年)の短縮
- 7 熱中症対策のためのエアコン設置(新設、更新)への支援

要望への回答につきましては、3月理事会で報告する予定にしています。



編集委員

清水 孝夫(市公連推薦) 秋村 好美(市立太田公民館) 木村 祥子(市立広田公民館)
谷井 千秋(市立四方公民館) 紺谷 道子(市立水橋中部公民館) 酒井 和恵(市立小羽公民館)
立野 明彦(市立宮川公民館)

発行者 富山市教育委員会
富山市公民館連絡協議会

所在地 富山市新富町一丁目2番3号
C i Cビル3階 市民交流館内

TEL 076-431-4569